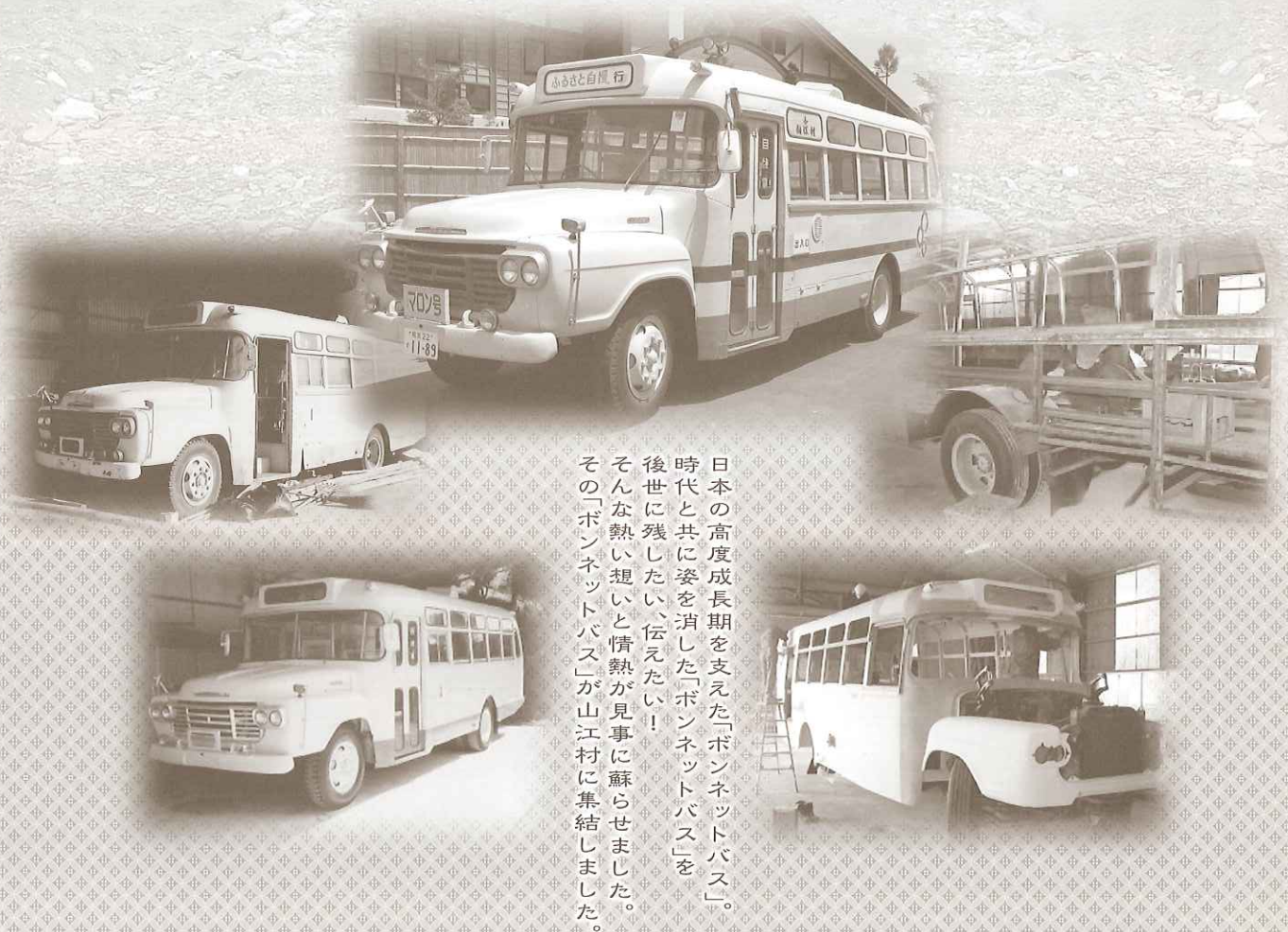


全国の ボンネットバス 大集合!!

山江村制施行120周年記念事業



日本の高度成長期を支えた「ボンネットバス」。時代と共に姿を消した「ボンネットバス」を後世に残したい、伝えたい! そんな熱い想いと情熱が見事に蘇らせました。その「ボンネットバス」が山江村に集結しました。

2008. 9. 14 (SUN)

九州山江村

主催: 熊本県山江村

協力: 福山自動車時計博物館(広島県) ㈱技研製作所(高知県) やなぎや観光(香川県) 九州自動車歴史館・湯平温泉観光協会(大分県) 魚沼交通(新潟県) 廣島かよこバス活用委員会(広島県)

事務局: 熊本県山江村役場総務課企画調整係

〒868-8502 熊本県球磨郡山江村山田甲1356-1 TEL0966-23-3111 FAX24-5669 E-mail:soumu@vill.yamae.lg.jp

ボンネットバスの紹介



出展者	福山自動車時計博物館(広島県)		
車名	日野	型式	BA14改
車台年式	1958(昭33)	原動機の型式	DS50(元DS12)
総排気量	7.98L(元7.01L)	全長	912cm
全幅	244cm	全高	290cm
車両重量	6,680kg	乗車定員	55人
車体製作者	東浦自動車工業		

型式の改は原動機載せ替えのため。元所有者は土佐電気鉄道。一昨年9月23日に静岡県掛川市のつま恋で開催された「吉田拓郎&かくや姫 Concert in つま恋 2006」のPRや会場展示に活躍。愛称はTSMAGOI号。粒子状物質減少装置装着車。



出展者	やなぎや観光有限会社(香川県)		
車名	いすゞ	型式	BXD30
車台年式	1966(昭41)	原動機の型式	DA640
総排気量	6.37L	全長	827cm
全幅	243cm	全高	293cm
車両重量	5,720kg	乗車定員	28人
車体製作者	富士重工業		

昭和41年から57年にかけて徳島県内で路線バスとして、57年以降は旅館の送迎バスとして使用。テレビドラマ「二十四の瞳」に出演。ナンバーも24を取得。

出展者	技研製作所(高知県)		
車名	ニッサン	型式	U592
車台年式	1959(昭34)	原動機の型式	UD3
総排気量	3.70L	全長	811cm
全幅	233cm	全高	290cm
車両重量	5,360kg	乗車定員	23人
車体製作者	新日国工業		

平成3年11月中村市にて発見。土佐電鉄整備センターにて復元作業を重ね、平成8年10月完成。四万夢太号の命名は、「四万十川のようにゆったりと太い夢を運ぶ」という思いが込められています。



出展者	福山自動車時計博物館(広島県)		
車名	トヨタ	型式	DB100
車台年式	1967(昭42)	原動機の型式	2D
総排気量	6.49L	全長	829cm
全幅	245cm	全高	305cm
車両重量	6,120kg	乗車定員	32人
車体製作者	呉羽自動車工業		

純然たるバスとしての同型車は他に遺存していない。元所有者は、富山県のおわら観光ホテル、中越バス販売、広島県のアナトランジット、愛知県の知多乗合など。当初の所有者は不明。知多乗合所有時の愛称はパンパール号。最近、塗装を更新。



出展者	福山自動車時計博物館(広島県)		
車名	ニッサン	型式	U690
車台年式	1963(昭38)	原動機の型式	UD3
総排気量	3.70L	全長	820cm
全幅	245cm	全高	295cm
車両重量	5,560kg	乗車定員	45人
車体製作者	渡辺自動車工業		

元所有者は福山市所在の土木建設会社。平成元年の開館当初より当館で活躍。映画「四万十川」(平成3年)、NHK総合「オンリーワンを探せ!」(平成19年)、テレビ朝日ドラマ「点と線」(同年)などに出演。一昨年7月、バイオディーゼル燃料導入。



出展者	九州自動車歴史館(大分県)		
車名	いすゞ	型式	BXD20
車台年式	1967(昭42)	原動機の型式	DA640
総排気量	6.37L	全長	765cm
全幅	220cm	全高	294cm
車両重量	5,370kg	乗車定員	38人
車体製作者	金産自動車工業		

北陸鉄道で活躍後白峰村開発会社を経て九州自動車歴史館へやってきました。湯平温泉協会が活性化のため復活させ、湯平温泉を走っています。

出展者	技研製作所(高知県)		
車名	トヨタ	型式	DB90
車台年式	1964(昭39)	原動機の型式	2D
総排気量	6.49L	全長	822cm
全幅	245cm	全高	306cm
車両重量	5,540kg	乗車定員	29人
車体製作者	松本車体製作所		

平成10年3月修復完了。オールオリジナルのDB90は国内唯一、元熊本県の九州産業交通の路線バス。阿蘇山山頂の国立公園名「九重」を参考に命名。「久重号」としたのは、「いつまでも幾久しく、重ねる」縁起が良いことを踏まえ。



出展者	魚沼交通(新潟県)		
車名	いすゞ	型式	BX341
車台年式	1959(昭34)	原動機の型式	DA120
総排気量	6.12L	全長	822cm
全幅	245cm	全高	284cm
車両重量	5,230kg	乗車定員	49人
車体製作者	金沢産業		

当初の所有者は愛媛県の瀬戸内運輸で、のちに子会社の瀬戸内海交通に移籍。平成16年に福山自動車時計博物館から嫁入りし、湯沢町近辺の観光地を訪れる巡回運行や貸切運行に活躍。運行時間外は「越後のお宿いなもと」に展示。



出展者	熊本県山江村		
車名	いすゞ	型式	BXD30
車台年式	1964(昭39)	原動機の型式	DA640
総排気量	6.37L	全長	835cm
全幅	249cm	全高	291cm
車両重量	5,640kg	乗車定員	28人
車体製作者	松本車体製作所		

平成4年から村民12名が修復。平成5年2月復活再登録。山江村の名産「山江栗」にちなんで「マロン号」と命名されました。平成17年5月、産業者古学会推薦産業遺産認定。第69号・平成20年フルレストア完了。



出展者	広島かよこバス活用委員会(広島県)		
車名	マツダ	型式	S-SD29T
車台年式	1989(平元)	原動機の型式	EO-7Z
総排気量	660cc	全長	404cm
全幅	182cm	全高	270cm
車両重量	1,310kg	乗車定員	12人
車体製作者	広島市立大学芸術学部		

明治38年2月5日、広島市の横川〜可部間で開業したとされるバス。国産ボデーを架装した最初のバス。乗合馬車屋などの妨害や故障が相次ぎ約5ヶ月間の営業。平成16年に地元有志の手でレプリカがつけられました。

当時のデータ	エンジン	ガソリンエンジン	出力	18馬力
	製造	シカゴモータービークル		
	定員	12人	車体製作者	日本車両製造(名古屋)
	製作年度	明治37年		銀座双輪商会輸入

■バスとは




乗合い馬車から発展し、一定の目的を持つ路線を走り、特定または不特定な多数の乗客が乗り合う自動車のことで現在のバスはロンドンのモーターバスから始まるとされています。道路交通法では、乗車定員11人以上の旅客運送用の普通自動車をいいます。この「バスに乗り遅れること(miss the bus)」は社会の風潮、傾向に遅れる、好機を逸することを意味します。

■ボンネットバス

ボンネットバスとはエンジン部分が前方部にあり、その前に突き出た部分(鼻)をエンジンカバー(フード)で覆ったものをいいます。その形が婦人の額を出す帽子(ボンネット)に似ていたためにその愛称が生まれたとされています。このボンネットバスに乗ること(on the bonnet bus)は現代の風潮、傾向に乗ること、好機をつかむことを意味します。

■バスの歴史

日本では、明治38年に広島県の横川～可部間で開業したとされるバスが、日本初とされています。当時は技術的にも未熟で、運賃も高く同年のうちに消滅しています。

1905(明治38)	2月広島県の横川～可部間に、アメリカ製水平2気筒18馬力ガソリンエンジンで12人乗りバスが走る。 名古屋の鉄道会社が車体を作るも本格営業の継続には至らず。 (明治36年説有り)		1935(昭和10)	BX40型バス完成	
1910(明治43)	三重県津市～川原田間にバス路線開業 長野県飯田～伊奈間にバス路線開業		1949(昭和24)	富士、民生産業共同で リアエンジンバスBR30型完成	
1919(大正8)	東京市街自動車設立 緑色の青バス営業、 バスガール誕生大阪市バス誕生(銀バス)		1951(昭和26)	大阪市営バスにワンマンバス走る	
1924(大正13)	東京市営バス(円太郎バス)フォードT型11人乗りで運行開始		1952(昭和27)	東京都にトローリーバス走る	
1926(大正15)	東京市内円タク(市内一円均一)		1953(昭和28)	バス創業50周年(広島のバス発祥より) バスがボンネットバス型から箱型バスへ移行	
1927(昭和2)	浅草～上野間に地下鉄(2.6キロ)		1964(昭和39)	名神高速道バス運行開始	
1930(昭和5)	スミダ型バス完成 岡崎～多治見間に最初の国鉄バス (省営バス)が走る		1967(昭和42)	バスの黄金時代、バス103億人を輸送	
1932(昭和7)	三菱神戸造船所は、ふそうB46型バスを完成し省営バスに納入		1972(昭和47)	デマンドバス実用化(阪急バス)	
1933(昭和8)	商工省は、バスBX35、BX40、BX45他にいすゞと車名をつける		1975(昭和50)	ハイデッカーバス時代到来	
			1981(昭和56)	ダブルデッカー(2階建)バス上野～浅草間を走る	
			1984(昭和59)	東京都市新バススタート各地にバスセンターが完成	
			1989(平成元)	スーパーハイデッカー時代到来 「バスの日」制定9月20日	

《これまでに各種団体や行政で推薦された自動車遺産とその種類》

■産業考古学会推薦産業遺産中の自動車遺産

1. No41 1996年度認定:フレームレスリアエンジンバス「ふじ号」富士重工業所
認定理由:その製造工程と車体構造の特殊性
2. No69 2005年度認定:ボンネットバス「マロン号」熊本県山江村所有
認定理由:いすゞ自動車最終生産型のボンネットバスで九州地区最後の路線バス



■日本機械学会編「日本の機械遺産」(平成12年刊行)中の自動車関連遺産

1. ダットサン・フェートン11型(1932年)日産自動車座間事業所
2. トヨペット・クラウンRS型(1955年)トヨタ博物館
3. スバル360(1958年)富士重工群馬製作所
4. ホンダ・カブF型(1957年)二輪用補助エンジン、ホンダコレクションホール

■経済産業省・近代化産業遺産群33(平成19年度経済産業省認定)中の自動車、エンジンなどの自動車関連遺産

1. ダットサン・15型ロードスター(日産自動車横浜工場G・H博物館)
2. 7型エンジン、495ccエンジン部品、ダットサンの出来るまで(日産自動車横浜工場G・H博物館)
3. トヨタG1型トラック(産業技術記念館)
4. トヨタスタンダードセダンAA型(産業技術記念館)



■日本機械学会・機械遺産、平成19、20年度中の自動車関連遺産

1. 10A型ロータリーエンジン(マツダミュージアム)
2. ホンダCVCCエンジン(ホンダコレクションホール)
3. カブ号F型・ホンダ自転車用補助エンジン(ホンダコレクションホール)
4. コマツブルドーザー40(コマツテクノセンター)
5. 円太郎バス(フォードTT型)

